

# 選択教科 社会 学習指導案

生徒 東神楽町立東神楽中学校

3年生 社会科コース 22名

指導者 蟹谷正宏

## 1 単元名 「司法」

## 2 研究内容とのかかわり

### (1) 研究の視点1 【指導者の意図を明確にした教材化】

本学習の生徒たちは、『司法』という内容を学習するという情報だけをたよりに、自らの意思で社会科を選択してきた22名である。調べてまとめる、発表するという意欲が高く、『司法』という内容に関心が高い生徒であると判断することができる。

次の情報から、選択社会科生徒（集団）の社会科学学習状況をとらえた。

ア) 1学期の観点別評価と評定

イ) 2学期の中間及び期末テストの観点別得点

(選択生徒と他生徒との観点別達成率を比較)

ウ) 調査方法やまとめ方、発表方法についての意識

以下に、その結果と分析結果を記す。

#### ア) 1学期の観点別評価と評定

・選択社会科生徒22名の平均値及び評定人数

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	平均評定

評定	5	4	3	2	1
人数(人)					

#### イ) 2学期の中間及び期末テストの観点別得点

・中間及び期末テストの観点別得点を満点で除して算出した数値を平均したものの。(表中数字の単位は%)

	思考・判断	技能・表現	知識・理解
選択生徒達成率			
他生徒達成率			

難易度が高かった期末テストの方で大きな差が出ていた。

#### ウ) 調査方法やまとめ方、発表方法についての意識

調査方法	訪問	電話	Fax	家人に聞く	インターネット	本	町外図書館
やったことがある							
やってみたい							

まとめ・発表方法	模造紙	レポート	パワーポイント	劇化	論文
やったことがある					
やってみたい					

実施結果から 22 名の生徒の学習状況については、次のようなことが言える。

- \* 「知識・理解」をみる設問の通過率が高い。学習した内容を記憶し、問いに対して語句で答えることを得意としている。
- \* 「技能・表現」「思考・判断」をみる設問の通過率はやや低い。獲得した知識を活用し、自分なりの言葉で説明をすることは苦手としている。
- \* レポートや論文形式のまとめより、発表や掲示を前提としたまとめを希望する生徒が多い。中でも、これまでにほとんど経験していない「劇化」による発表を試みたいという生徒が 3 名いたことは、意外であった。

総括すると、「断片的な知識はあるが、それらに関連させて説明したり、新たな問題について考えたりすることが苦手な実態」、「プレゼンテーションや掲示することを目的としたまとめ方に好んで取り組もうとしている様子」がうかがえた。

教育を取りまく情勢を見てみると、最近、下記のような法的資質の育成を通じて理想的市民を育むことを目指す「法教育」が取り上げられることが多くなっている。

〈法的資質〉 \*注 1

- ① 自己の日常生活の中における数多くの場面が法と関連しているということを認識すること。
- ② 法制度を理解すること。
- ③ どのように法がつくられ変化するかという法過程を理解すること。
- ④ 日常生活において、法を発見し効果的に使用するのに適切な技能と批判的検討を行える技能を身に付けること。
- ⑤ 法あるいは法の基礎にある法的原則や価値を認識し、それに従って行動すること。

上記の法的資質の育成を目指す法教育とは、これまで社会科でも扱われてきた人権教育や消費者教育などを包含するものであり、社会科が目指す「公民的資質の基礎を養う」ことにつながるものであると考える。

また、平成 16 年 5 月「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が公布された。国民の司法参加を実現するこの裁判員制度は、今から約 4 年後の平成 21 年 5 月までの間にスタートする。中学 3 年生が成人する頃に、ちょうど始まることになる。裁判や法律というと縁遠い感覚があるが、日常生活はすべて法の下に動いており、罪を犯したり権利がぶつかり合ったりした際には、司法により裁かれたり調整が図られたりする。本来は、とても身近なものである。

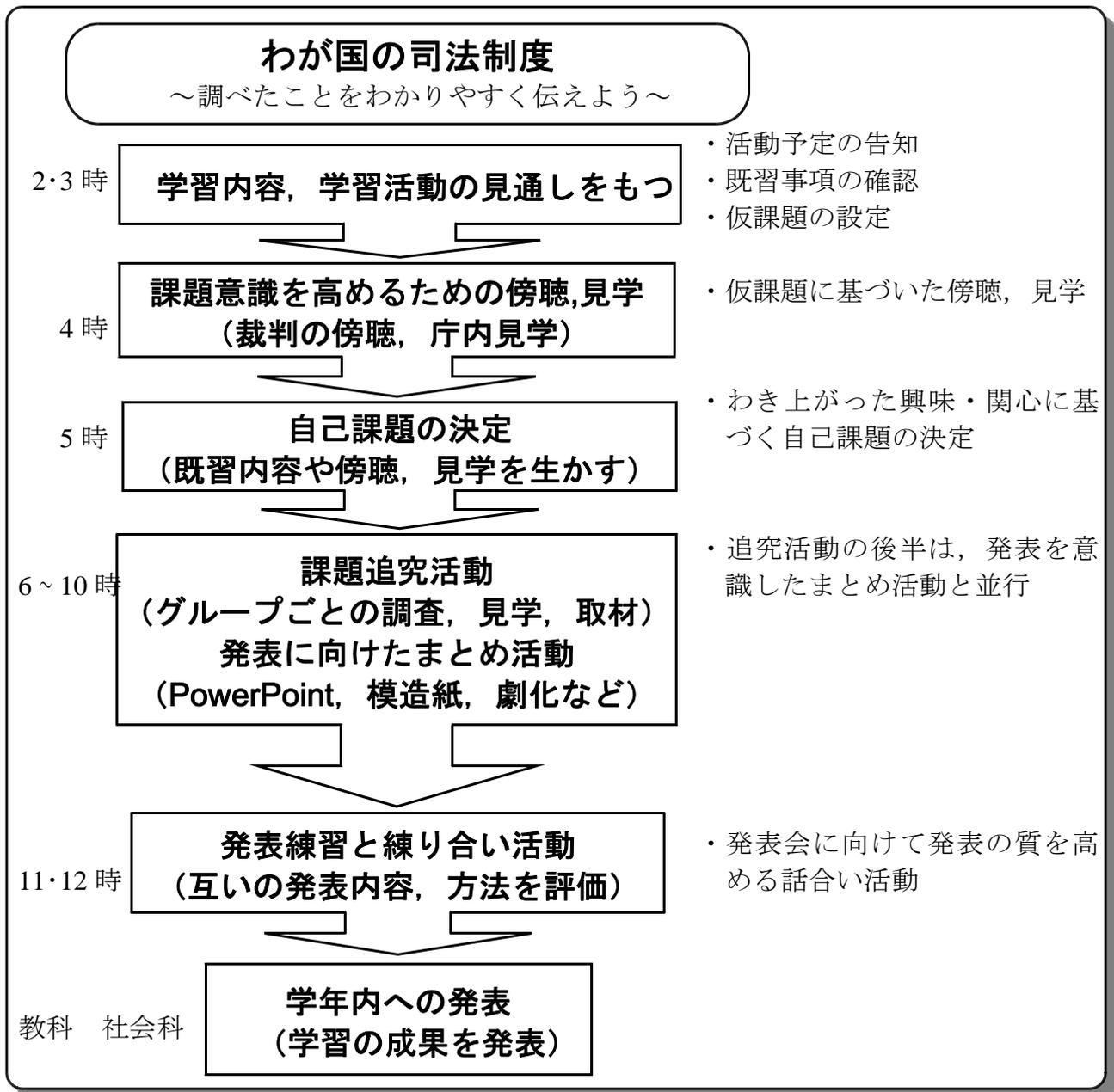
\*注 1：『法教育～ 21 世紀を生きる子どもたちのために～』 著者：関東弁護士会連合会・編の総論部分より

これらのことから、本単元では、次のような生徒を目指して、わが国の司法制度を窓口にした法教育の一端を教材化し学習を進めていく。

【本単元で目指す生徒像】

- ① 体験を通して、わが国の司法制度に関心をもち、自分の学習課題を見付ける生徒。
- ② 学習活動に見通しをもち、自分の学習計画を修正したり、追究方法を工夫したりする生徒。
- ③ 追究した結果をわかりやすくまとめたり、工夫された方法で発表したりすることができる生徒。





### (3) 研究の視点3 【評価を生かした指導の充実】

生徒の社会科の学習状況をとらえるために、ア) 1 学期の観点別評価と評定、イ) 司法に関するレディネステスト、ウ) 調査方法やまとめ方、発表方法についての意識についての情報を集め、診断的評価を行った。その結果、断片的な知識はあるが、それらに関連させて説明したり、新たな問題について考えたりすることが苦手な実態を明らかにすることができた。さらに、プレゼンテーションや掲示することを目的としたまとめ方に好んで取り組もうとしている様子もとらえることができた。

また、生徒が、自己の学習課題の解決に向けて追究し続けることができるようにするためには、強く関心を抱いた内容を自分の学習課題として設定することが大切であると考え、そのために、①単元の学習の見通しをもたせる。②既習の程度の知識や体験の上に立つ、質の高い課題をもつことができるように、自己の学習課題を決める前に体験的な活動を設定する。③単元の終末段階で学習活動を転換し、自己課題解決のために発揮した追究意欲を、わかりやすい発表の在り方に向けることができるようにする。という点に留意して単元の学習を構成した。

本時は、班の発表を質的に向上させる時間とした。ここでは、生徒に自分たちの発表や他の班の発表を沿って評価の場を設定する。そして、次に、相互評価の場を設定し、自己評価結果と他からの評価結果を照らし合わせて、よりわかりやすい内容にするための修正点を相談する。発表方法の面からの修正はもとより、内容のわかりやすさについても検討を加える活動を取り入れることにより、これまでに各班に分かれて調べてきた内容の共有化を図るとともに、個々の理解をより深いものにしていきたい。

### 3 単元の目標及び評価規準

#### (1) 単元の目標

「裁判所見学」を契機に裁判や司法制度に関心をもち、様々な資料を活用したり、取材・見学活動をしたりして、わが国の司法制度について深く理解し、わかりやすく発表することができる。

#### (2) 評価規準

時間	学習活動	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象につい ての知識・理解
1	オリエンテーション 事前テスト				
2 3	仮の課題設定 裁判傍聴の留意 事項	調査用紙のすべ ての項目に記載し ている。			正しい用語で自 分の傍聴の視点を書 いている。
4 5	刑事裁判の傍聴 裁判所内見学	メモを取ったり 進んで質問したり している。			
6	自己課題決定 グループ編制 追究の見通し	何についてどう やって調べるかを 考えている。			
7 8 9 10	課題追究活動 発表物作成		集めた資料から 調べたことを自分 の言葉で表現して いる。	自己課題解決に 必要な情報を自力 で集めている。	
11 12	発表、意見交流 (相互評価)		各班発表内容の 修正点を考えてい る。		わかった事柄を 短い言葉で列挙す ることができる。
13	学年発表会の開 催			発表物を効果的 に使いわかりやす い発表をしている。	

#### 4 単元の指導計画

時	学習過程	おもな学習活動	教師の働きかけ	評価計画
1	<b>オリエンテーション</b>	全 ○学習の流れを確認し，裁判に対する関心をもつ。		
2 3	<b>仮課題設定</b>	全 ○わが国の司法制度について理解する。（裁判傍聴の留意事項を共通に学習）	* VTR や資料を活用しつつ，既習の学習内容と関連させる。	
4 5	<b>課題設定</b>	全 ○確かな自己課題をもつために裁判所見学を行う。		
6		個 ↓ 班 ○自己課題を設定する。 ・裁判官のしごと ・裁判官になるには ・裁判員制度とは など	*学習の終末で他の生徒に説明する場「よくわかる裁判(仮称)」を設定すると予告する。 *同一の課題3～4人でグループを編制する。	
7 8 9 10	<b>追究・解決</b>	班 ○自己課題に沿って，文献資料やインターネットで調べたり，取材活動や見学をしたりする。		
11	<b>発表 意見交流</b>	班 ○調べてまとめたことをわかりやすく発表する。	*「よくわかる裁判」説明会開催を確認しそれに向けて意識を高める。	
12		全 ○発表の内容や方法の両面について，相互評価活動をする。（認め合い，修正点の指摘など）		
13	<b>発展・深化</b>	全 ○これまでの成果，反省を生かして「よくわかる裁判」説明会を開催する。	*これまでの活動を自己評価する。	

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

わかりやすい発表のために、各班発表内容のどこをどのように修正したらいいのかを考えることができる。

### (2) 具体的な手立て ～「授業力」にかかわって

- ①生徒の学習意欲を持続させたり、自分たちの学習に自信と責任をもったりすることができるように、ジグソー学習的な形態を取り入れる。
- ②同じ視点で、相互に発表の評価ができるように、チェックリストと自由記述の欄がある評価票を使用する。

### (3) 本時の展開

生徒の活動と思考の流れ	教師の支援と評価
<p>① 未発表の班が発表する。 ・3班を予定している。</p> <p>② 学年発表会「よくわかる裁判」に向けて、各発表の内容を吟味する。(班ごとに相談する) 【吟味の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者が初めて見て(聞いて)もよくわかる内容だったか。</li> <li>・事実だけの報告になっていないか。 (この学習を通して得たことを自分なりの言葉で表しているか)</li> </ul> <p>③ 互いの発表の修正点について話し合う。 * 発表した班の所に、聞いていた班の数名が行き、自己反省を聞きながらアドバイスをする。 * どのような修正を加えたらよいかを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストと自由記述式の評価票を配付し、発表ごとに評価させる。</li> <li>・発表した班は自己評価をする。</li> <li>・聞いていた班は、よりわかりやすい内容にするためのアドバイスを考える。</li> </ul>
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;">発表班</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;">発表班</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;">発表班</p> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-right: 20px;"> <p>↑↓</p> <p>↑↓</p> <p>↑↓</p> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <p>聞いていた班</p> <p>聞いていた班</p> <p>聞いていた班</p> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">* 発表した班同士は、用紙の交換のみとする。</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">* 発表班同士は、用紙の交換のみとする。</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">* 聞いていた班でまとめた修正点を、発表班に伝えるに行き、行った先で、その内容について検討をするという形。</p>	
<p>④ もとの班に戻り、自分たちの修正点を話し合う。</p>	